

Cover Presentation

表紙プレ
ゼンテー
ション

用水に想う連綿たる循環



犀川河畔を眺める場所に住んでいる。夜、横になって耳を澄ませると、せせらぎの音が聞こえてくる。水は海に流れ、空に昇り、山よりまた帰って来る。太古からつながる、連綿とした循環。

私の外に水はあり、私の中に水はある。
私の外に宇宙はあり、私の中に宇宙はある。
(The Waters/ MY LITTLE LOVER 45)

あるときは交差する。この街では用水の網の目は膨大であり、道と対等なポリウムを成す。二つのネットワークはともに、曲がりくねり、有機的なかたちを持つ。その重なりは思いがけない出会いと風景をもたらす。用水を渡る。視線は立て込んだ建物の裏側を通り抜け、遠くの道のあちらとこちらをつなぐ。街路だけでは考えられない、重層し、うるおいのある風景が立ち上がる。まち歩きの醍醐味がここにもある。

今、あなたの命を支えるもの、体を支えるもの、通り抜けていくもの。同じものが、街を取り囲む二つの川から取り込まれ、血脈のように街をうるおしていく。それが「用水」と呼ばれる。

道のネットワークに用水のそれが重なる。あるときは道に寄り添い、

細い小路をゆく。用水があらわれる。せせらぎが聞こえる。水面に光がきらめく。ホッとすると一瞬。その安らぎは、あなたも包み込む大きなものに出会えた安堵なのだろう。それが親しみやすいかたちで街とともにある「用水」。今日も密やかな命のざわめきを立てながら、あなたとの出会いを待っている。●



松本大
Text by MATSUMOTO Dai
建築家
都市環境マネジメント研究所 研究員
松本大建築設計事務所代表